

ることもあり同財団では「企業にも一定の期待感がある」と分析している。業育成資金」の融資実行額は38億円と前年同期比で152%増えた。融資新事業に取り組む中小ベンチャー企業向けの融資制度。同支店は「製造資金が21億600万円」と分析している。機械器具、電子部品の製造に関連する企業の利用で迅速に処理する能力を高め、早期復興に役立て

埼玉県内でビジネスやイベントに仮想現実（VR）を活用する動きが広がっている。注文住宅などを手がける松井産業（三郷市）は顧客の住宅案内に導入したほか、志木市は自治体のPR用映像を作製。商業施設の集客策としても使われ始めた。物珍しさに加え、あたかもその場にいるかのような臨場感を伝えられる特徴があり、注目が集まっている。

県内官民 VR活用広がる

松井産業 展示会で住宅内移動 志木市 巨大ロボが観光PR



レイクタウンではVRが体験できる施設が登場した

ゴーグル型の「ヘッドマウントディスプレイ（HMD）」を使い、端末を操作して仮想空間上で住宅内を

移動したり、上空から眺めたりできる。

同社は10月から、顧客の住宅相談でもVRを活用し始めた。同社担当者は導入の理由を「画面を見ながら説明するよりもリアルな体験ができる。接客の場がより盛り上がる効果もある」と説明する。

に乗った視点で地元をPRするのは志木市だ。映像は観光PRの巨大ロボットのキャラクター「4式（ししき）ロボ」が地下の格納庫から発進し、志木市上空を飛ばす3分30秒。HMDを借り受け、これまで防災協定などを結ぶ他自治体との交流イベントで展示した。市産業観光課は「子どもだけでなく、大人も体験したところがないので、良い反応をしてくれる」としている。大型商業施設「越谷レイクタウン」（越谷市）は10月、VRが体験できる「VR Center」を設けた。ジェットコースターを疑似体験したり、シューティングゲームができたりする。11月中旬までに1万3000人が来場した。Jリーグ大宮アルディージャ（さいたま市）は10月下旬、本拠地のNACK5スタジアム大宮でゴールキーパーの視線でシュートを止める体験会を開いた。手と腰に特殊な装置を身につけ、ボールが当たるタイミングで振動する。来場したファンに好評だったといい、来年にVRを本格導入することも視野に入れている。

全長90・6歳のロボット

埼玉